

(公財) 日本リウマチ財団リウマチケア看護師研修カリキュラム

【教育(課程)目標】

医療機関の実践現場においてリウマチケアチームのメンバーとしての倫理観を有し、必要とされる知識や技術を備え、患者や家族および他の医療職、国民から信頼されるリウマチケア看護の専門職を育成する。

【一般目標】

適切な包括的臨床判断を行い、他の医療職と連携・協働して看護の視点から質の高いリウマチケアを実践・指導できる。

【到達目標(行動目標)】

- 1) リウマチケアに対して、看護理論と専門的知識をもとに、高度に熟練した技術を提供できる。
- 2) 患者の個性に配慮し、適切な情報と技術に基づいて、安全・安心・安楽なリウマチケアを実践できる。
- 3) 医療チームの中で他の医療職と緊密な連携・協働を行い、看護職のロールモデルとしてリウマチケアに関する指導・相談に応じることができる。

*リウマチケアとは、高い倫理性と専門的な知識・技術を備え、同僚に対する指導・相談を通し、他の医療職と連携・協働して安全・安心の治療とよりよい療養の継続を支える活動をいう。リウマチケアの対象は関節リウマチのみならず、広くリウマチ性疾患すべての患者を対象とする。

教育研修期間：5年

対象・資格：看護職

修得科目は以下3つの領域からなり、習得すべき教育研修単位は20単位以上とする。

- 1) 医療における専門職業人としての倫理観や責任感を養う。
- 2) リウマチケアの実践に必要な知識や技術を深める。
- 3) 連携や協働を促進してリウマチケアチームの力を高める能力、看護職のロールモデルとしてリウマチケアに関する指導・相談に応じることができる能力を養う。

教育研修科目と取得単位

大項目	中項目	小項目	講義内容	
I. 専門職業人としての倫理観・責任感 カリキュラムコード 1 :合計2単位	1-1 医療倫理 (1単位)	1)人権と倫理	人権、尊厳の理解 医療倫理、看護倫理	
		2)倫理問題への対処	①診断・治療に伴う倫理諸問題 ②患者の意思決定支援	
	1-2 コミュニケーション(1単位)			
II. リウマチケア実践に必要な知識・技術 カリキュラムコード 2 :合計14単位	2-1 疾患と治療の理解 (4単位)	1)診断	疫学、検査、病態生理学、重症度・病期分類	
		2)治療	最新の治療、治療目標 薬物療法、外科的治療、 リハビリテーション治療等	
	2-2 ケアの対象となる人の理解 (1単位)	1)患者・家族の情動理解	①慢性・難治性疾患とは	
			②難病とは	
			③家族アセスメント	
	2)フィジカルアセスメント	健康の評価を行うための具体的な情報収集の方法。ヘルスアセスメントの中に含まれ、身体的データを収集(問診や身体診察など)し、評価することを指し、身体面の正常範囲と正常逸脱範囲を判別する。 ・関節などリウマチ性疾患特有の症状に関わるアセスメント ・全身状態に関わるアセスメントなど		
		3)看護ヘルスアセスメント 人々の健康状態を身体的、精神的、社会的な視点から総合的に評価する方法。症状体験や生活状況を患者・家族とともに理解するなどして、病気に罹患していても、より健康的に生活できるよう患者・家族を支援することに焦点を置く。 ・症状や病気の体験を理解する ・心理社会的側面のアセスメント ・生活にかかわるアセスメントなど		
2-3 看護実践 (1単位)	1)状況別看護	①診断・治療開始期 診断時のケア 薬物療法開始・変更時のケア		
		②急性期 疾患活動性増悪時のケア 急性疼痛と慢性疼痛の違い、ケア 合併症管理や感染予防指導		

		③回復期 在宅療法、自己注射移行時などのケア
		④再燃時期 薬物療法等治療方針変更時のケア 外科的治療前後のケアを含む
		⑤安定期 基礎療法:安静と運動、睡眠、栄養、サプリメントなど
		⑥終末期 エンドオブライフケア(End of Life Care) 診断名、健康状態、年齢にかかわらず、差し迫った死、あるいはいつかは来る死について考える人が、生が終わる時まで最善の生をいけることができるように支援する*。
		⑦治験 ⑧災害時リウマチ患者支援
	2)看護アプローチ法	病みの軌跡理論、セルフケア理論、発達課題、ストレスコーピング、症状マネジメントモデル、エンパワメント、自己効力感、家族エンパワメントモデルなど リウマチ性疾患患者に活用できる看護理論や看護アプローチ法
2-4 公的社会保障制度・社会福祉 (1単位)		
2-5 文献検索・学習／看護研究 (1単位) 看護研究法を学ぶための研修会 学会・研究会等における発表、論文掲載(筆頭・共同研究)を含む		
Ⅲ. 他の医療職との連携や協働を促進してリウマチケアチームの力を高める能力。看護職のロールモデルとしてリウマチケアに関する指導・相談に応じることができる能力 カリキュラムコード3 :合計 4 単位	3-1 チームアプローチ、IPW:Interprofessional Work(専門職連携) (1単位)	1)チーム連携における看護の役割(調整) チーム力の効果的な活用方法
		2)院内における継続看護
		3)地域保健、地域連携のあり方
	3-2 医療安全 (1単位)	
	3-3 リーダーシップ (1単位)	
3-4 コンサルテーション(1単位)		

* End of Life Care: 千葉大学大学院End of Life Care看護学<http://www.n.chiba-u.jp/eolc/opinion/>

※カリキュラムコードは緑色の数字 ○-○です。